体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

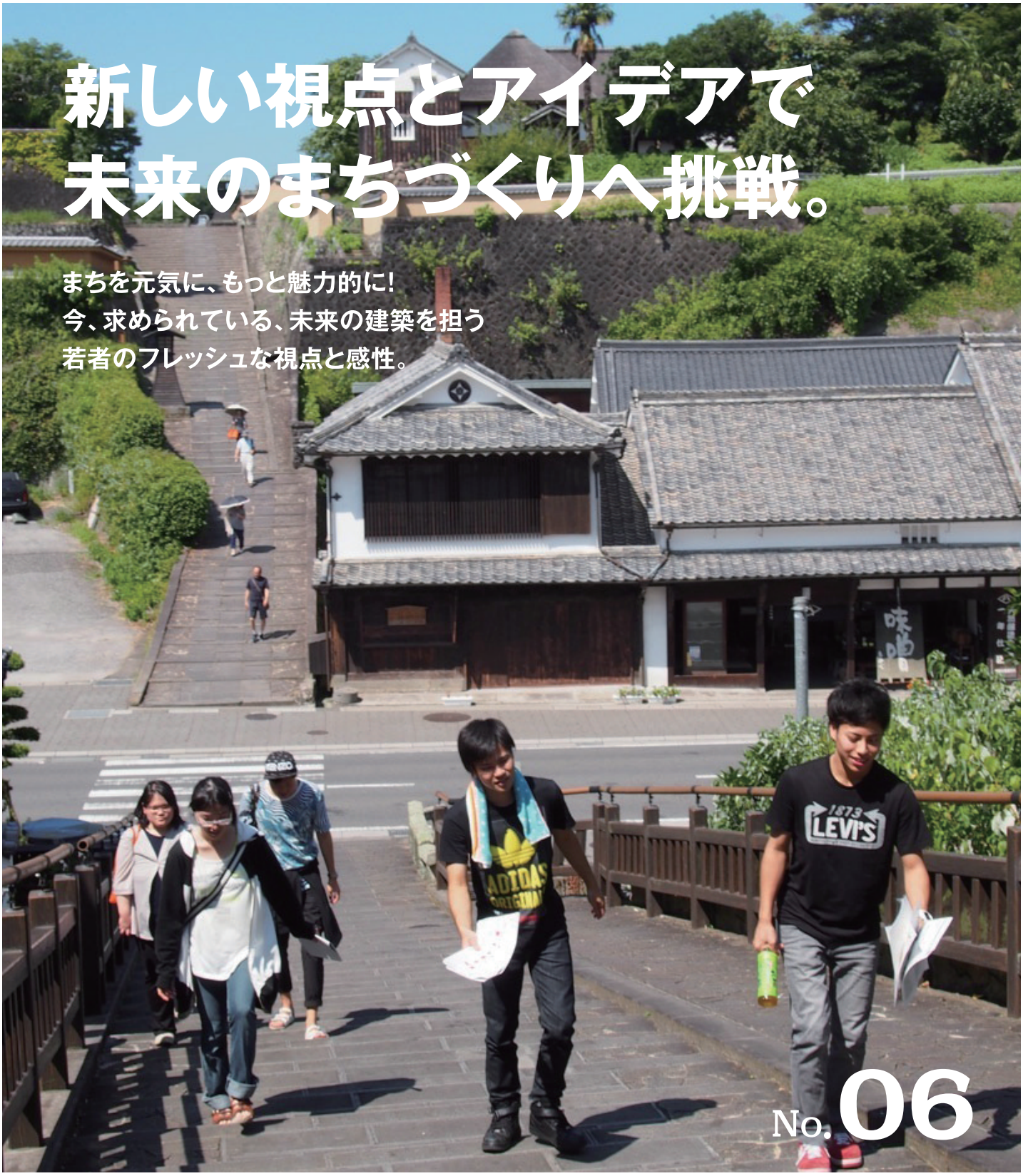
coc-nbu.jp

February 2016 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

文部科学省 地(知)の拠点

日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと



新しい視点とアイデアで未来のまちづくりへ挑戦。

まちを元気に、もっと魅力的に!
今、求められている、未来の建築を担う
若者のフレッシュな視点と感性。

No.06

Copyright Nippon Bunri University, All rights reserved.

輝け、私たちの大分県

NBU建築学科、地元・大分の今と明日を本気で考える。

歴史を活かした城下町の姿とは？老朽化した駅を地域の人々にずっと愛される新しい駅舎へ。子どもたちにとってよりよい校舎のスタイルを考える…。NBU建築学科が取り組むさまざまなプロジェクト。その先は、これからの大分を輝かせる「まちづくり」の新しいカタチがありました。

▲「きものが似合う歴史的町並み」に認定された杵築のまち。

project ①

城下町に賑わいを取り戻そう ～杵築ひろば計画～

建築のバーチャル設計コンペティション「Build Live Japan 2015」（一般社団法人IAI日本主催）にNBU建築学科の「近藤研アンド池畑研」のメンバーがチャレンジ。全国の中から選ばれた課題地は、大分県杵築市。歴史と文化を誇る城下町は今、空き地が目立ちはじめ、賑わいを失いつつあった。

夏の強い日差しの中、汗を拭いながら杵築のまちを歩く。確かに空き地が点在している…しばらくしてメンバーの一人が呟いた「町家の下に川が流れていますね…」。いくつもの時代をこえて、まちの機能を果たしてきた川だが、現在は安全面などを考慮し、ひっそりと隠されていた。今はマイナスイメージが強い川を、まちの中の小自然と考え直し、プラスイメージへと転換してみたらどうだろう。川辺ではしゃぐ子どもたちを大人が笑顔で見守れる、そんな安全で楽しい親水空間があったなら…。現状ではマイナスな部分でも、発想を変えたり、付加価値を見出せばまちの魅力になるのではと考えた学生たちは、さらにアイデアを膨らませていく。「夏の夜に蛍が舞う城下町、杵築を」。美しい川には蛍が生息する。現在の空き地部分をビオトープ（自然界の生き物がありのままに生息活動できる場所）として整備することで、歴史的なまちなみを蛍の淡い光が彩る幻想空間が誕生する。そうなれば、夜間に観光できるスポットが少ない城下町エリアの問題を解決し、新たなる観光名所として全国にアピールできる。さらに自然を守りながら美しい風景を残していくという、杵築市民の皆さんの地元愛へとつながっていくだろう。

夏休みを返上し、コンペティションに向けての作品づくりに挑戦した学生たち。杵築の川を利用した「池の上に浮かぶ宿泊施設」や木材とガラスを、さまざまな角度でつなぎ合わせることで、城下町の風景を不思議に映し出す「万華鏡のような休憩室」など大学生ならではの自由で独創的なアイデアを提案した。

審査の結果、チャレンジ賞を受賞。「まちづくりで大切なことは、地元でずっと暮らしていく人を想うこと」と稲葉渉姫リーダーが語るように、今回のチャレンジを通じて、彼らの大分愛はさらに深まったようだ。

▲町家の下に隠れた川を利用した宿泊施設の提案。杵築のまちなみにふさわしい、風情のある外観となっている。

▲歴史的な建物が並ぶ杵築の城下町に蛍が舞う雰囲気をCGイメージとして表現。

NEWS

若者の目と知恵で魅力的なまちづくり

杵築市のように「若者やよそ者の知恵を借りよう」という市町村は多い。今後のまちづくりのために、大学生のアイデアやパワーを必要とする地域はますます増えていくだろう。

※掲載記事は許諾を受けています。

2015.8.4 大分合同新聞（朝刊）

来月、3次元建築物設計の競技会

杵築が"舞台"
まちづくりの参考に

杵築市のまちづくりの参考にしようと、市は来月初旬から市地に民間の3次元建築物を設計するコンペティションを誘致した。今年9月に開催する。設計事務所や大学の研究室が参加を予定している。市の担当者は「室内建築の技術で磨かれる杵築の町並みは刺激になるはず。興味を持ってほしい」と呼び掛けている。

project ②

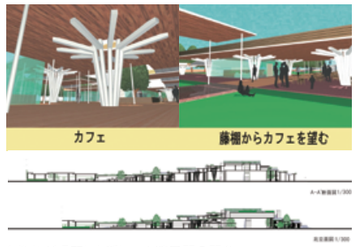
中判田駅を中心とするまちづくりプロジェクト

▲現地に赴き調査開始。さまざまな問題点が浮かび上がる。

駅舎の老朽化、施設の不便さや駐輪場不足など多くの問題を抱える、JR中判田駅周辺。地元自治会などから「整備事業の青写真を描いてほしい」とNBU建築学科へ依頼されスタートしたプロジェクトは3年目を迎えている。

学生は現地へ何度も足を運び問題点を自分の目で検証。階段を使わないとホームに行けないため、高齢者や身体の不自由な方にとっては利用しにくいこと、通学で利用する高校生の中には踏切のない線路を横断する危険な行為があることなどが課題として浮かび上がっている。一方で1,000人以上へのアンケート調査や地域住民との対話も実施。利便性だけでなく、景観や憩いの場としての活用など、地元住民にとって愛着の湧く駅にしてほしいという声が多く届いた。

「花」や「イベント」など具体的なキーワードを、これからどのようなカタチにしていくのか。まちづくりにつながる中判田駅の誕生へ向けてチャレンジは続く。



▲学生が提案した新しい中判田駅の駅舎。四季を感じる心地よい空間を制作した。

NEWS

中判田駅のこれからを地元住民と一緒に考える

「中判田駅を中心とするまちづくりプロジェクトの報告会」を開催。学生たちが調査・研究内容や設計プランを発表した。その後も、プロジェクトは継続され、現在、3年目を迎えている。

※掲載記事は許諾を受けています。

NBU学生「まちづくりプロジェクト」設計案
中判田駅周辺整備
駅舎を保存 憩いの場も
地元「一年月かけ進めたい」

2015.3.26 大分合同新聞（朝刊）

project ③

地域を育てる未来の学び舎 大分市「施設一体型小中一貫校」

▲1/500から1/100まで4つの模型を学生たちが制作。完成度の高さに関係者からは驚きの声が上がった。

碩田中学校と住吉小学校地を活用した大分市初の「施設一体型小中一貫教育校」。平成29年4月に開校へ向けて、地域住民とのディスカッションや学校名、新校舎設計に関する打ち合わせなどが続いている。大分市教育委員会の「碩田中学校区新設校開校準備委員会」にはアドバイザーとしてNBUの建築学科、西村謙司准教授が参画。西村ゼミの学生メンバーも積極的に活動をサポートしている。

「小中一貫教育校だからと、ただ小学校と中学校を同じ建物内に設置してしまえばいいという問題ではありません」と西村准教授が語るように、小学生と中学生が同じ敷地内で学ぶことのメリットに加え、「地域」と「学校」とのつながりを感じることができる、地域コミュニティとしても機能する新しい学び舎のスタイルを教育関係者、地域住民がともに考えることが今、求められている。

そこで西村ゼミのメンバーが中心となり、今回、建設予定の新校舎の1/100スケール模型を制作。さらに、子どもたちはもちろん、地域住民とのコミュニケーションの場として期待されている校舎群と体育館をつなぐ大空間や地域交流施設などの具体的な活用プランなどについても、大学生の視点でアイデアを出し合い、議論を行った。模型を実際に見ることで施設全体のイメージがはっきりしたり、学生の活用プランをベースに議論が盛り上がれば…と、地域の皆さんが新設校に興味を持って、話し合いの場が増える「きっかけづくり」に励む学生たち。大分らしい「小中一貫校」が誕生し、地域も人も成長できる拠点となるために考えること、話し合うべきことは、まだまだたくさんある。だからこそ、学生たちは、地域や社会のコーディネーターとして縁の下の力持ちになることを誓い、実践している。

▲研究室での打ち合わせの様子。熱い議論が交わされる。

学生たちの活躍は、NBUのCOC特設サイトをチェック！ nbu coc 検索

Copyright Nippon Bunri University. All rights reserved.

日本文理大学COC事業

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、教職員、地域の皆さんにインタビュー。

06

「中判田駅を中心とするまちづくり」
プロジェクトメンバー
工学部 建築学科3年
那賀 美咲

Q.「中判田駅を中心とするまちづくり」で目指すものは?

A. 中判田駅について、地元の関係者の皆さんとお会いしたのですが、四季を感じられる花壇や、みんなが集えるスペースが欲しいなど、たくさんのリクエストをいただきました。実在する駅なので敷地や道路の幅などの制約もあるのですが、さまざまな条件の中で、地元の皆さんに喜んでもらえる、愛着を持って駅を利用してもらえるプランをつくりたいと思います。時間はかかるかもしれませんが、自分ひとりで考えるだけではなく、メンバー全員がアイデアを持ち寄り、議論を重ねながらカタチにしていきたいですね。

Q. アイデアを具体的なカタチにする作業でこだわっている点は?

A. 昔から絵を描くことが好きなので、CADなどの建築専用ソフトだけでなく、色鉛筆を使ったイラストで表現しています。彩りや温もりなど手描きの方が伝えやすいですね。子どもが楽しめるアーチや喫茶店、小さなイベントができる空間など、電車を利用する人だけでなく、地元の人たちが気軽に立ち寄れて、楽しい時間を過ごすことができる空間を想像しながら描いています。

and more...

PICK UP! COCプロジェクト

2015.12.26 共に生き、地域の「絆」を守る餅つき大会(佐賀関編)

ウミネコの会「餅つき大会」

年の瀬に大分市佐賀関の幼稚園跡地に集まったのは、1年間にわたり稲作づくりに取り組んだ子どもたちと大学生、そして地元の皆さん。賑やかな雰囲気の中、餅つき大会が始まった。勢いよく杵を振り上げたものの石臼の端をたたいてしまう子どもたちを優しい笑顔で見守るおじいちゃん、おばあちゃん。子どもたちが杵を持つ手を大学生がしっかりと支え、もう一度「イチ・ニイ!ぺったん!」。元気な声が響きわたり、かつての幼稚園の一コマが蘇る。「物知りのおじいちゃんやおばあちゃんがたくさんおるなぁ」、「若い人は力があるから餅の伸びが違うなぁ」とお互いを讃え合い、笑顔が弾ける。つきたてのお餅と一緒に、みんなで作ったしめ縄や鏡餅を地元の老人ホームにも届けてホッと一息。地域の皆さんが集う行事は、楽しみながら学べることがたくさんある。「喜び」と「感謝」の輪の中で、若者たちはまた一つ成長していく。

まだまだあります!
大分県内をステージに進行中のプロジェクトが盛りだくさん。

- 森林ボランティアで学んだこと
- カボス農場で感じる“特産品”の魅力
- 丹誠込めて育てた甘太くんへの愛情

etc...

くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ

文部科学省 地(知)の拠点
NBU日本文理大学
〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL.097-592-1600(代表)
http://www.nbu.ac.jp

大学院 工学研究科	□環境情報学専攻 □航空電子機械工学専攻
工学部	□航空宇宙工学科 □機械電気工学科 □情報メディア学科 □建築学科
経営経済学部	□経営経済学科

Copyright Nippon Bunri University, All rights reserved.